

平成20年度（2007／2008年）の研究活動の概況
生体防御医学研究所・所長
吉開泰信
（よしかいやすのぶ）

生体防御医学研究所では、生体の恒常性を維持している「生体防御」研究というユニークな研究課題のもとに生命現象の本質に迫る基礎研究を展開すると共に、生体防御機構の破綻による難治性疾患の発生機序の解明と診断、治療法の確立を目指した研究を展開し国際的にも高い評価を受けて参りました。平成20年度の主な活動状況は以下の通りです。

1. グローバルCOE「個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻」（平成19年度～平成23年度）を継続した。
2. 特別教育研究経費研究推進感染症研究施設大学連携事業（新興・再興感染症研究ネットワーク）（平成17年度～平成21年度）で引き続き、研究推進、インフラ整備をおこなった。
3. ポストゲノムの先端的研究を積極的に推進してNature Cell Biologyなどのトップジャーナルに研究成果を発表した。
4. 独自のResearch Assistant制度、大学院生を経済的に支援することによって、システム生命科学府、医学系学府における大学院教育を充実させた。
5. 若手研究者自立的研究環境整備促進事業ではSSP（特任准教授）による「生体防御におけるポストゲノムサイエンス」研究を引き続き推進した。
6. 若手研究者の交流の場として平成20年7月9日にコラボIIで親睦会、平成20年8月9・10日に阿蘇いこいの村で第11回リトリートを開催し、ベスト口演賞、ベストポスター賞の選出をおこなった。
7. 生医研ホットスプリングハーバー国際シンポジウムを平成20年11月9・10日九州医療センターにおいてStem Cells and Regenerative Medicineのテーマで開催した。
8. 先端的研究方法、最新知識を体得するために、国内外から第一線の研究者を招聘して生医研・グローバルCOE理医連携セミナーを引き続き実施した。

現在、平成22年度からの次期中期目標に向けて、学術政策上国として特に整備を推進する研究組織「共同利用・共同研究拠点」の認定に向けて申請準備中です。生体防御医学研究所に集約された生体防御の知識、技術を基に生体防御に関する先端的共同研究を推進することで生体防御医学、医療の発展を望む研究者コミュニティの要望に応える所存です。これからも質の高い基礎研究の成果の情報を発信し続けることはもちろんのこと、社会貢献・国際貢献に関する活動を社会に対して目に見える形で示すことで、研究者コミュニティでの存在感を高めることが、ますます重要となってきます。これらの課題に適切に対応するために今後とも所員一同、より一層の努力を行う所存であります。何卒、生医研の今後の発展のために厳しい御批判、御鞭撻とともに御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成21年4月1日